



TITLE:

日本一のクラゲ天国田辺湾(5) ベニクラゲ

AUTHOR(S):

久保田, 信

---

CITATION:

久保田, 信. 日本一のクラゲ天国田辺湾(5) ベニクラゲ. 紀伊民報 2011

ISSUE DATE:

2011-01-06

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/180138>

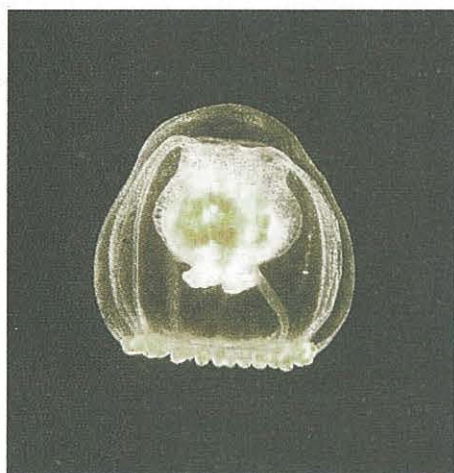
RIGHT:

© 紀伊民報社

# 紀伊民報

2011年(平成23年)1月6日 木曜日 第20481号 (12)

## ベニクラゲ



△  
田辺湾で採集した  
ベニクラゲの雌

久保田 信

5



「クラゲの中のクラゲは？」と聞かれれば「ベニクラゲ」と即答する。それはこのクラゲ以上にすごい生命を持ったクラゲ、否、多細胞動物はいないからである。永遠の命、つまり「不老不死」だから。

通常のクラゲは、有性生殖すると死を迎えて溶け去る。ベニクラゲは溶けずに肉団子状になり、再び走根を延ばし、若い体のポリプへ戻る。このポリプがクラゲ芽を形成し、やがてクラゲとして分離して泳ぎ出す。この一連のサイクルを無限に繰り返すのだ。私は、わが国のベニクラゲを用いて現時点で8回の若返りの世界記録を達成している。老化や生命の秘密の研究材料として、将来、注目される生き物としてみている。

田辺湾で夏から秋にかけてプラシクトンネットをひくと、ベニクラゲが捕れる。画像で示したのは雌で、真ん中の部分の口柄（こうへい）の上部が胃袋で、その周りが生殖巣である。たくさん丸い卵をつくり、成熟していることが分かる。ただし、触手はネットびきで取れてしまった。

画像のような大人のクラゲになる前、若いポリプの姿で海底でくらしている。そのポリプには「根」と「茎」と「花」の部分があつて、まるで植物のように妖しく美しい。人を苦しめるほどの毒は持っていないので、手で触ってもどうってことはない。

肝心の若返りであるが、生殖して子どもをつくるクラゲは、私たち人間や他の動物と同じように死すべき最後の姿なのだが、ベニクラゲだけは死なず、たった数日で若いポリプに戻ってしまう。無限に繰り返すのだから、いま採集したものが1億歳という可能性もあるわけだ。もちろん、生物として生き残るため、子づくりもきちんとし、新しいDNAを持った子孫も残している。（京都大学准教授）